

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：34510

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2017

課題番号：25770086

研究課題名(和文) 1920～30年代の大衆文学の展開とメディア・ミックス現象に関する総合的研究

研究課題名(英文) The Popularization of Japanese Literature through the Phenomenon of Adaptation during the 1920s and 1930s.

研究代表者

笹尾 佳代 (SASAO, Kayo)

神戸女学院大学・文学部・准教授

研究者番号：60567551

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、文学が大衆化される過程に生じていた、文学作品の映画化などのメディア・ミックス現象に着目するものである。

メディアを越えた文学作品の享受の過程からは、文学的事象が当時の読者とどのように対峙しようとしていたのか、ひいては変容する社会にどのように応答していたのかが浮かび上がってくる。その諸相を、特に女性作家や女性表象をめぐる生じていたジェンダーの問題に着目することから考察した。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the phenomenon of adaptation, which occurs in the process of the popularization of literature. The adaptation of a literary work for the screen, for example, could create a larger audience for the original literature.

Through the study of the examples of adaptation, this research reveals the relationship between literature, the audience, and society in the 1920s and 1930s. Special attention is paid to female authors, and gender issues are also investigated.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：メディア 大衆 ジェンダー 映画 スキャンダル

1. 研究開始当初の背景

大衆文学がメディアを越えて流通する諸相は、すでに多くの研究によって検討されてきた。しかし、著名な作家の作品をめぐるものや、有名監督、脚本家、演出家等による映画、演劇など、個別事象の分析が主であり、大衆文化圏の動きとして、広く捉えられてこなかったといつてよい。申請者は、一九三〇年代の樋口一葉をめぐる複数のメディアを横断したメディア・ミックス現象の分析を通して、多数の事例を広く見渡すことから、大衆の関心の所在が浮かびあがるとともに、大衆文化が受け手とどのようにコミットしようとしていたのかが見えてくるという知見を得ていた(『結ばれる一葉』双文社出版、2012)。そこで、メディア・ミックス現象を、主に受け手との関わりの中で考察することとした。

また、「大衆小説」の研究は数多いが、大衆文化として浸透していた「講談」との関わりについては充分検討されていないといつてよい。講談から小説へというメディアの横断もまた、メディア・ミックス現象と捉え、その動きを捉えることとした。

2. 研究の目的

本研究課題では、メディア・ミックス現象を、広範な受け手へのコミットの方法(コミュニケーションの諸相を表すもの)と捉え、その特徴を明らかにすることを目的とした。またその動きの中に、社会の変動に文学がいかに応答していたかが見えてくると考え、考察した。具体的には以下のような試みである。(1) 1920年代特有の事例として浮かびあってくるのは、大衆文化において小説の存在感が増すことである。歴史ものを扱う「講談」が、「大衆小説(鬚物)」へと発展することもまたメディア・ミックスであると捉え、大衆文化の動きを考察した。

(2) 文学の享受の多様性(メディア・ミックス現象)は、受け手(読者)へとどのようにコミットしようとしていたのかを表わすものである。そこで、当時の「読者」をめぐる文学理論にも注目し、概念としての「読者」の諸相を検討した。

(3) 映画の誕生は、文学の享受のあり方を変容させる。文学大衆化の諸相を検討するために、文学作品の映画化に着目し、シナリオ等の資料調査、分析を行うことを目的にした。

(4) 通俗化、大衆化の現象の中には、しばしばジェンダーをめぐる問題が浮上する。大衆文化におけるジェンダー構造を捉えることを目的にした。

3. 研究の方法

まず、「大衆文学」というジャンルの登場と、「講談」との関わりについては、初めて「大衆文学」と名付けられた『現代大衆文学全集』(平凡社、1927~32年)を軸に検討することとした。データベースを作成し、当時の講談との比較を行うこととした。

また、同時期の「読者」をめぐる文学理論を読み解くことから、「読者」概念について検討した。

さらに、映画化作品のシナリオ等、残された資料の調査、分析を行うとともに、大衆文化の中に生じていたジェンダーをめぐる問題について、ジェンダー研究の成果をふまえて考察した。

4. 研究成果

映画と文学との関わりを検討するための資料調査過程において、戦後復活第1回の芥川賞作家である由起しげ子作品の映画化シナリオや、由起が執筆したシナリオという、多数の貴重な資料を閲覧する機会を得た(所属先である神戸女学院大学へ遺族より寄贈があり、「由起しげ子文庫」として整理され

た)。そのため、当初の計画から時代は外れるが、由起をめぐるメディア・ミックス事例について検討し、2本の論考と、事例一覧のデータベースを作成した。

上記の考察から浮上したのもまた、メディア・ミックス事例とジェンダーをめぐる問題との関わりであった。大衆文化をめぐるジェンダー構造の問題(スキャンダルにおける女性規範の発露、大衆化過程におけるジェンダー規範の強まり等)を、さらに樋口一葉、柳原白蓮、菊池寛、谷崎潤一郎等による女性表象を考察することから明らかにした。

「講談」と「大衆小説」との関係性に関しては、『現代大衆文学全集』の目次データベースを作成するとともに、講談についての調査を行った。しかし、調査が進むほどに広く大衆文化圏を見渡す必要性が増し、未だ調査結果を公表するに至っていない。継続してとり組んでいきたい課題である。また、明らかになった個々の事例の特徴を、周囲の現象と接続することも不足しているため、さらなる考察を進めたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

笹尾佳代「作品の映画化にみる1950年代の由起しげ子評価」『作家由起しげ子の視界—戦後日本の文化と社会』神戸女学院大学由起しげ子研究会、2018年1月、pp.106-117

笹尾佳代「由起しげ子と視聴覚メディアとの関わり事例一覧」『作家由起しげ子の視界—戦後日本の文化と社会』神戸女学院大学由起しげ子研究会、2018年1月、pp.157-170

笹尾佳代「由起しげ子とメディア—五所平之助監督作品『黄色いからす』・『挽歌』のシナ

リオ執筆』『女性学評論』(31)、2017年3月、pp.37-63

笹尾佳代「日本近現代文学作品に見る鳴門イメージの創出と変容—名勝・冒険・大衆口マン」『「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査報告書—文化編—』、2017年3月、pp.242-254

笹尾佳代「メディアとしての白蓮事件：事件報道と「鳳凰天に搏つ」をめぐる」

『Juncture：超域的日本文化研究』(6)、2015年3月、pp.42-54 [査読有り]

笹尾佳代「軽井沢モダンの諸相 菊池寛「陸の人魚」・阿部知二「山のホテルで」を中心に」『奈良教育大学 国文 研究と教育』(38)、2015年3月、pp.34-46

笹尾佳代「新生新派の 樋口一葉 —「一葉舟」のドラマトゥルギー」『同志社国文学』(81)、2014年11月、pp.278-290

[学会発表](計4件)

笹尾佳代「メディアイメージと女性作家」神戸女学院大学総合文化学科専門部会研究発表会、神戸女学院大学、2016年7月5日

笹尾佳代「日本近代文学作品に見る鳴門イメージの変容—修養・冒険・大衆口マン」『鳴門の渦潮』世界遺産登録学術調査検討委員会報告会、鳴門市役所、2016年5月12日

笹尾佳代「日本の文学理論と文学研究の方法—読者」台湾大学ワークショップ—日本の文学理論、台湾大学、2016年3月24日

笹尾佳代「翻訳の「たけくらべ」」日本女子大学学術講演会、日本女子大学、2014年12月21日

〔図書〕(計3件)

共著『日本の文学理論 アンソロジー』水声社、2017年6月、p446(「物語論 概説・解題」(河田学・笹尾佳代・西川貴子、pp.93-126)「読者論 概説・解題」(岩松正洋・菊池暁・笹尾佳代、pp.207-246)

共著『日常を拓く知2 やさしさ』世界思想社、2017年8月、p128 (笹尾佳代「人を憂う力ー樋口一葉『たけくらべ』」、pp.73-91)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹尾佳代 (SASAO Kayo)
神戸女学院大学・文学部・准教授
研究者番号：60567551

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

(4) 研究協力者

()